

【準備】

変量 x の n 個の値 x_1, x_2, \dots, x_n の平均値を \bar{x} とするとき, $x_1 - \bar{x}, x_2 - \bar{x}, \dots, x_n - \bar{x}$ をそれぞれの値の **偏差** という。偏差の 2 乗の平均値を, 変量 x の **分散** といい, s^2 で表す。

$$s^2 = \frac{1}{n} \{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2\}$$

分散の正の平方根を **標準偏差** といい, s で表す。

$$s = \sqrt{\frac{1}{n} \{(x_1 - \bar{x})^2 + (x_2 - \bar{x})^2 + \dots + (x_n - \bar{x})^2\}}$$

偏差の積 $(x - \bar{x})(y - \bar{y})$ の平均値を, x と y の **共分散** といい, s_{xy} で表す。

$$s_{xy} = \frac{1}{n} \{(x_1 - \bar{x})(y_1 - \bar{y}) + (x_2 - \bar{x})(y_2 - \bar{y}) + \dots + (x_n - \bar{x})(y_n - \bar{y})\}$$

x の標準偏差 s_x と y の標準偏差 s_y の積 $s_x s_y$ で, 共分散 s_{xy} を割った値を **相関係数** といい, r で表す。

$$r = \frac{s_{xy}}{s_x s_y}$$

【定理】

相関係数 r のとり得る値の範囲は $-1 \leq r \leq 1$ である。

〈注意〉証明には, 数学 B「数列」で学習する Σ (シグマ) を用いる。

証明

$$x_i - \bar{x} = x'_i, \quad y_i - \bar{y} = y'_i \quad \text{とおくと} \quad r = \frac{\sum_{i=1}^n x'_i y'_i}{n s_x s_y}$$

ここで $\left(\frac{x'_i}{s_x} + \frac{y'_i}{s_y}\right)^2 = \frac{x'^2_i}{s_x^2} + 2\frac{x'_i y'_i}{s_x s_y} + \frac{y'^2_i}{s_y^2} \geq 0$ であるから

$$\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left(\frac{x'_i}{s_x} + \frac{y'_i}{s_y}\right)^2 = \frac{1}{s_x^2} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x'^2_i\right) + 2\frac{\sum_{i=1}^n x'_i y'_i}{n s_x s_y} + \frac{1}{s_y^2} \left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y'^2_i\right) = \frac{s_x^2}{s_x^2} + 2r + \frac{s_y^2}{s_y^2} = 2 + 2r \geq 0$$

よって $r \geq -1$

$$\left(\frac{x'_i}{s_x} - \frac{y'_i}{s_y}\right)^2 = \frac{x'^2_i}{s_x^2} - 2\frac{x'_i y'_i}{s_x s_y} + \frac{y'^2_i}{s_y^2} \geq 0 \quad \text{であるから, 同様の計算により} \quad \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \left(\frac{x'_i}{s_x} - \frac{y'_i}{s_y}\right)^2 = 2 - 2r \geq 0$$

よって $r \leq 1$ したがって $-1 \leq r \leq 1$

ポイント $\left(\frac{x'_i}{s_x} + \frac{y'_i}{s_y}\right)^2$ の 1 から n までの和の中に, 標準偏差, 相関係数が含まれることを利用する。